

昼

続清水港

戦後改題
清水港代参夢道中



©日活

1940年/日活/原作:小国英雄/監督:マキノ正博/主題浪曲:前篇「子育て道中」、後篇「人間森の石松」(口演:広沢虎造)/配役:片岡千恵蔵(石田勝彦 & 森の石松)、広沢虎造(照明部員広田 & 虎造)、沢村国太郎(石松役者 & 慌ての六助)、志村喬(劇場専務 & 小松村七五郎)、轟夕起子(黒田文子 & おふみ)、美ち奴(お民)
白黒スタンダード/1時間30分

■解説 大正15年(1926年)に18歳で監督デビューし、85年の生涯に261本の映画を監督した、日本映画史そのものと言っていい巨匠・マキノ正博監督の1940年の作品。当時、人気絶頂だった浪曲師・広沢虎造の十八番「清水次郎長伝」の森の石松の物語のパロディとして映画化した奇想天外なコメディの傑作。

■物語 時は現代。「森の石松」を上演する劇団の演出家・石田は煮詰まっていた。ふて寝して目を覚ますと、そこは江戸時代の清水港。石田は森の石松になっていた。「俺は石松じゃない」と周囲に訴えるが、気が違ったと思われる始末で、石田は石松の人生を歩むことに…ということは、最後は殺されてしまうのか?!

夜

新佐渡情話



©日活

1936年/日活/原作:竹田敏彦/監督:清瀬英次郎/浪曲口演:寿々木米若/配役:黒川弥太郎(謙之助)、花井蘭子(お梅)、山田好良(伊作)、上田吉二郎(網元重兵衛)、高崎健太郎(重兵衛の倅・重太郎)、田中泰子(お艶)、和田君示(番頭・芳松)、市川小文治(越後屋庄兵衛)、林雅美(山口勘太郎) 白黒スタンダード/1時間18分

■解説 昭和初期、広沢虎造と人気を二分した浪曲師・寿々木米若(すずきよねわか)の「佐渡情話」を映画化し浪曲映画ブームを作り出した日活が、余勢を駆って製作した浪曲映画。監督の清瀬英次郎は39歳で夭折しているが、山中貞雄も私淑したと言われる監督で、随所にキラリと光る演出力を見せている。

■物語 妻を探して佐渡に渡った男とその娘・お梅。行き倒れの体で男は亡くなり、残されたお梅は漁師の伊作に拾われる。伊作が育てていた甥の謙之助とお梅は兄妹同然に育てられ、やがて成長した二人はお互い惹かれあうようになる。だが、二人の間にはある秘密が隠されていたのだった……。



映画に引き続き口演

昼

清水次郎長伝 お民の度胸

都鳥一家に襲われ、血だらけになりながらも、兄弟分の七五郎の元に辿り着いた石松。七五郎は石松を押し入れに隠すと、女房のお民に迷惑がかからぬよう、「石松の代わりに切られて死ぬので、ここで夫婦の縁を切ってくれ」と頼む。しかしお民、「惚れて一緒になったんだ。一緒に死のう」と笑って返す。遂に都鳥一家が七五郎の家にもやってくる。殺気立つ都鳥の下郎どもに、お民の啖呵が響き渡る…。

夜

きんぎょめまぼろし 金魚夢幻

玉川奈々福の名を一気に押し上げた、今や名作と言っていいオリジナル浪曲。当代随一の金魚師、伝助は、稼いだ金をすべて新しい金魚の開発につきこむため、借金だらけ。そんな彼が、かつてない色をした美しい金魚・マボロシをつくりだす。マボロシは、他の金魚たちからいじめられるが、伝助の言葉に生きる希望を見出す。ところがそんなマボロシに、思わぬ運命が待ち構えていた…。

うなるのは浪曲新時代のエース

玉川奈々福

相三味線を務めるのは
若手No1の曲師

広沢美舟



©御堂義乗

12月5日(火)

昼 2:00 / 夜 6:30

※開場はいずれの回も30分前

gardens' Cinema

呉服町6-5 マルヤガーデンズ7F 099-222-8746

料金: 各回 3,200円

11月11日よりチケット発売

*お席のご予約は劇場までご連絡下さい

主催:(一社)鹿児島コミュニティシネマ

芸術文化振興基金助成事業

